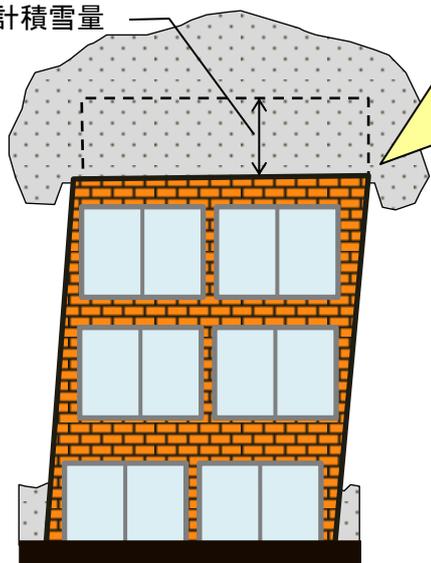


# 空き家住宅・建築物の屋根雪管理に心掛けましょう

下図のような屋根雪の時は、建物の倒壊・破損等の危険がありますので、速やかな雪下ろしに心掛けましょう。

## 〔雪下ろしが必要な住宅・建築物の例〕

設計積雪量



屋根雪が積雪表示板に記載された設計積雪量を超えている。  
(比較的に規模が大きい建築物の場合)

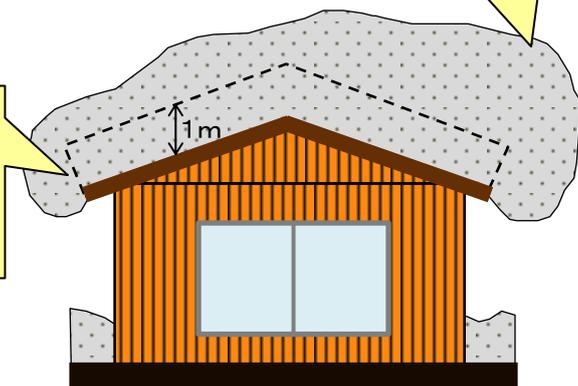
設計積雪量	
設計積雪量	○ m
設計者	
施工者	
竣工年月日	年 月 日

※構造計算を行った建築物については、出入口付近等に積雪表示板が掲示してあります。

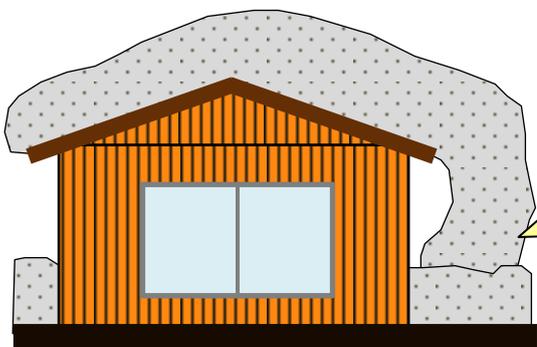
しまり雪、ざらめ雪では、設計積雪量でも危険な場合があります！

屋根雪が偏っている。

積雪が1mを超えている。  
(住宅等の場合)



周囲の雪と屋根雪がつながっている。



《その他注意する建物》

- 老朽化した建築物・住宅
- 梁間隔が大きい建築物等

積雪当初は軽い雪でも、時間の経過とともに、やがて固く締まり、重みも増してきますので、早めの雪下ろしに心掛けましょう。

《参考》雪の分類と特徴

名称	特徴	おおよその雪の重さ (kg/m <sup>3</sup> メートル)
新雪	降って間もない期間(3~4日程度)の雪	30~150
しまり雪	降雪後数日がたち、構成粒子が丸みをおびた雪で、粒子同士の結合も発達し、全体としてきめ細かい締まった感じのもの	150~500
ざらめ雪	融解水の介在で生じる粗い感じの雪。粒子は1~3mmもあり、一粒一粒をはっきりと見分けることができるもの。	300~500